

人生いろいろ 波動もいろいろ

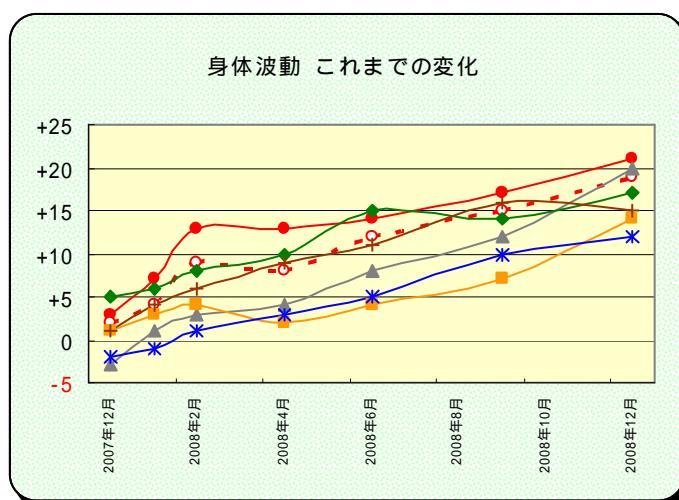
アクアタック研究室
片岡 章

アクアタック研究室の大切な仕事のひとつに、人の身と心の波動測定があります。これまで多くの方にご利用いただき、感謝しております。

さて、それを続けるなかで、みなさんの関わりかた、あるいは測定値の変化のしかたに、いくつかのパターンのあることがわかってきました。きょうは、それらをご紹介します、みなさんの生活のなかで役立つヒントにさせていただこうと思います。

その手始めに、まず、右のグラフをご覧ください。

人の波動測定のなかで最もオススメなのが、気になるところ100～200項目すべてを測定し、波動水をつくって飲んでいただく【全体測定のコース】ですが、グラフは、この測定を受けられたお客様にご自身の変化を見ていただくためのものです。測定の都度、作成し、お渡ししています。



1～2回分のデータだけではあまり意味あるものにならないため、3回目からの添付となりますが、ご覧になった方からは、「わかりやすい」「^{はげ}励みになる」という感想をいただいております。

また、何度も測定されている方であれば、「このころは気をつけていたから高い波動を維持できた」「あのときは暴飲暴食してしまったから ...」などと、過去を振り返って過ちを繰り返さないための鏡にもなります。

ちなみに、線が何本もあるのは、〔脳・自律神経系〕〔消化器系〕... と分野別に平均値を出して表示しているためですが、これらの折れ線は、上昇するにせよ、下降するにせよ、おおむね、みな同じ方向に動いています。「肝臓の具合が悪くて ...」といっても、肝臓だけの問題ではないはず。全体を見ることの大切さが、ここからも読み取れます。



では本題です。先に申し上げましたように、お客様が測定とどう関わるか、その波動がどう変化するか、そのパターンはさまざまです。当然、グラフの形もさまざまです。これまでのグラフを、いくつかの典型的なパターンに整理し、特徴を拾い上げてみましょう。ただし、先ほどのグラフは、何本もの線が絡み合っていて煩雑ですので、単純な1本の線で表すことにします。

<急成長>型

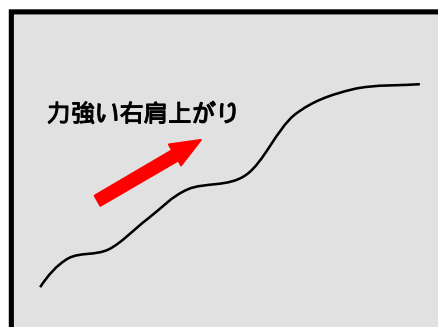
経済急成長時代を思わせる力強いグラフです。おもに2つのケースがありますが、共通項は“背水の陣”。

そのひとつは、**超多忙**なケースです。手帳にはスケジュールがびっしり。全国を飛び回り、講演にセミナーに取材、時にはテレビ出演、夜中には原稿書き ... 倒れるわけにはいかない、といった日々です。

もうひとつは、**大病**をされていて、いましっかり立て直さなければならない、というケースです。

どちらの場合も、気を抜けません。毎日毎日が真剣勝負です。

そのようなわけで、毎月きちんと測定し、その都度、測定にもとづいて、ご自分用の波動水をつくり、飲んでおられます。ご本人の気合が入っていることもあって、グラフは着実に伸びていきます。最もお手本にしたいパターンです。



ここで、高いところに昇りきったあたりからグラフは横ばいになりますが、これは、波動が十分なレベルにまで上がり、続いて、それを維持する段階に入ったことを意味します。よい波動状態がしばらく保持されることによって、細胞さんたちにも笑顔が^{よみがえ}ります。

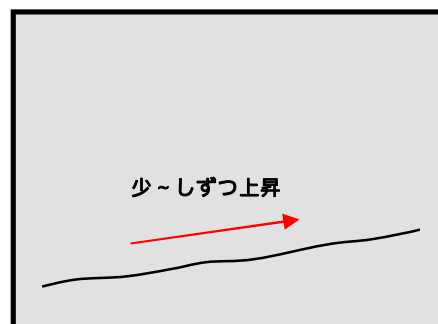
この場合、多忙な方々は、その後も気の抜けない日々が続きますので、たいてい、安定してから毎月測定を受けてくださいます。一方、そうでない方は、半年～1年に1回のチェックで足りることになります。

ちなみに、ここまでハードな状況ではありませんが、同じく健康管理には気を使っておられて、波動水をずっと続けてくださっている方々があります。この場合、測定は2～3ヶ月に1回のペースです。勾配は^{こまかい}緩やかですが、やはり、グラフは同様のパターンを描きます。

<じわ～っと上昇>型

の変化形です。傾斜がとても^{ゆる}緩やかではありますが、不断の右肩上がりになっている点は同じです。

特に切迫した状況ではないため、勇み足にはなりません。しかし、まじめに取り組み、波動水も欠かさず飲み続けておられます。



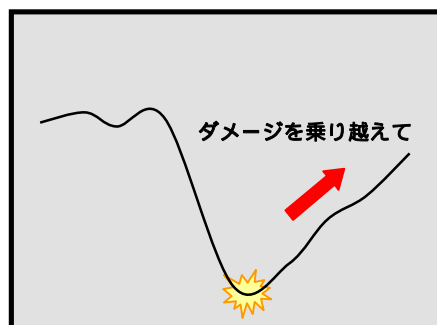
単なる印象ですが、このようなパターンは、**体感することよりも頭で考えることを優先してしまう（時に考えすぎる）人**に多いような気がします。

もっとも、体感型で一気に上昇する人は、下がる時も速いようです。ゆっくりにはゆっくりなりの良さがあるのではないのでしょうか。

<千尋の谷>型

安定して高い波動レベルを維持してきた人でも、任の重い仕事が集中して**気力、体力を過度に消耗**した場合、ガクンと落ち込んでしまうことがあります。

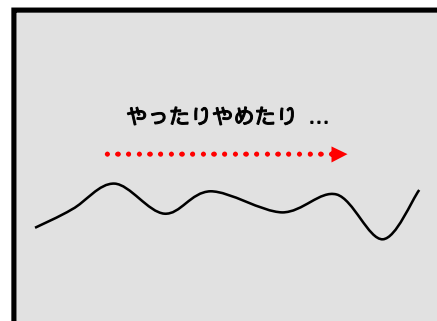
あるいは、**大きな手術**をおこなった直後にも、同様のパターンが見られます。それは当然です。たとえ麻酔のせいでも本人に自覚がなかったとしても、神経や細胞にとっては一大事。**怪我**をしたのと同じ状況なのですから。



しかし、一旦はこのような事態に陥ったとしても、千尋の谷から這い上がる子獅子のごとく、再び上昇を始めます。それまでに基礎ができている方であれば、なおさらです。

<引きのばし>型

「よくなりはじめた。このままいけば順調に ...」と期待していると、しばらく音沙汰がなくなり、あるとき、思い出したように再開する。そんな調子で、**ゆったりやめたり**を繰り返す、延々と同じ状況に留まっている方もおられます。



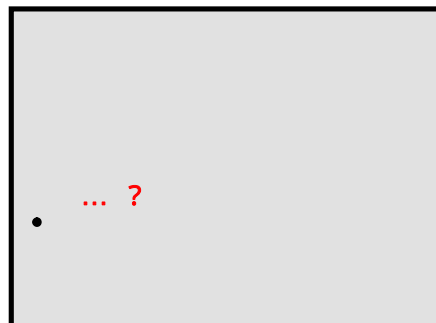
こういったタイプの人には、「**治りたくない**」という気持ちが潜んでいるようです。そんなばかな、と思われるかもしれませんが、事実です。しかも、珍しいことではありません。

これは、お医者さん、治療師さんならば、みなさん経験しておられるはずなのですが、治ると困ってしまう人たちなのです。というのは、具合がよくなってしまうと、**家族から同情されなくなったり、自分の取り組むべき課題がなくなってしまう**りするからです。

このような方々には“時薬（ときぐすり）”が必要です。時間をかけて、自分のなかで少しずつ納得し、障害物を外していくのが、結局は最短かと思われまます。

<喉もと過ぎれば>型、<一期一会>型

“一度きり”というパターンです。一度でよくなってしまったのか、変化が感じられなかったのか、よい変化を感じたが他へ目が移ってしまったのか、いずれにせよ、一度きりで終わってしまう人です。そのため、グラフも、最初の点ひとつしかありません。



確かに、波動水を飲みはじめて数日後、奇跡？ と思いたくなるような報告をしてくださる方もあります。

なので、一度ですんでしまうことも、あるのかもしれませんが、もしそうであれば幸いです。しかし、通常は、それが安定するまでに時間を要するでしょう。そこまでは様子を見ていただきたいところです。

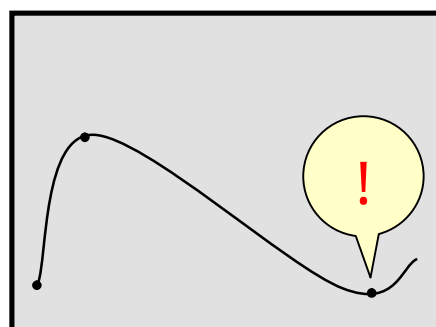
つぎに、変化が感じられなかった人の場合ですが、これまでの測定経験によると、変化を感じる、感じないにかかわらず、2度目の測定値は、みなさんよくなっています。続けていただくといのですが ...。

3番目の“目移りさん”は、の<引きのばし>型ともオーバーラップしますが、あちらの情報、こちらの情報と、いつまでも渡り歩くタイプです。こういった方の場合、なかなか好転は見られません。情報社会のマイナス面でもあります。

もちろん、波動水がすべてではなく、もっと適している療法があるかもしれませんし、波動水と併用するとよい方法もあります。ですから、ほかの療法に目を向けること自体は、悪いことではありません。ただ、“あちらへふらふら～、こちらへふらふら～”というのでは、埒があかないのです。

<気を取り直してリベンジ！>型

2度目の測定をし、波動的によくなっていることが確認されました。しかし、そこで安心してしまったのか、次がない そんな人のなかにも、何ヶ月、あるいは何年か後に、気を取り直して再チャレンジしてくださる方があります。



しばらくブランクがあったため、3度目の測定では振り出しに戻っていますが、新たに上昇が始まります。

波動水を一生続けなければ、また波動が落ちてしまう、というのではなく、ご自分でコントロールできるところまでいけば、そのあと波動水は不要です。ですが、そうなる前にやめてしまったのでは、失速しかねません。それは、たこあ 綱が揚がりきらないうちに、糸を引っ張って走るのをやめてしまうようなものです。



数通りのパターンを見てきました。当然のことながら、 のように順調に上がって安定してくれるのが、私たちとしては嬉しいです。それに、費用的にも無駄がありません。

しかし、人生いろいろ、波動もいろいろ。さ迷ったり、しばらく中断してみたり、という時間もまた、必要なことなのかもしれません。それを味わってみる理由が、きっとあるのでしょう。

どのようなパターンで進めるかは、つまるところ、ご本人次第、ということになりそうです。

気が向いたら、いつでもお越しください お待ちしております

最後に、こんなグラフをお見せしましょう。

か
描き忘れではありません。一度も波動測定をしなかった人です。

ほとんど男性ですが、結果を見ることを恐れる方がいらっしゃるのです。気がかりな点があったにもかかわらず、向き合うことをためらったばかりに、とても残念な結果を迎えてしまったケース、そういったものも何例かあるので、ここに付け加えおきたいと思うのですが、

波動測定にかぎっていえば、恐れることはなにもありません。病院検査ならば、「あと何ヶ月」という怖い宣告が待っていることもあります。しかし、波動測定にはそれがありません。なぜなら、**波動は、いかようにも変化しうるもの**だからです。たとえ低い波動値があったとしても、不摂生をしないかぎり、波動水その他の方法によって、それは上昇していき、いくらかでも回復可能なのです。

もちろん、波動という領域でOKになったからといって、それがそのまま“治った”を意味するわけではなく、病院検査でもOKとならなければ不十分です。しかし、不調を作り出している世界がひとつクリアされるだけでも、大きな前進です。波動的によくなれば、病院検査でよい結果となる可能性も高まるのです。無用な恐れによってその道を塞ぐことのないよう、祈るばかりです。

